



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 6 年度 第 2 号
令和 6 年 4 月 3 0 日 (火) 発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

『礼を正し、場を浄め、時を守る』

校長 田中和浩



新学期が始まり、1か月が過ぎようとしています。1年生は少しずつ中学生らしくなり、2、3年生は新しいクラスで気持ちを新たにそれぞれの目標に向けてスタートを切ったところです。明日から、ゴールデンウィークの連休が始まります。4月から緊張したからだを少し休めつつ、好きなことやご家族と過ごすことに時間を使い、英気を養ってほしいと思います。

さて、先日の入学式の式辞で教育者 森信三先生の言葉『礼を正し、場を浄(きよ)め、時を守る』を紹介いたしました。その際、この言葉に寄せて、私が生徒の皆さんへ心がけてほしいことを伝えましたので、改めて紹介します。

「礼を正し」とは、相手を思い、真心を示すことです。「おはようございます」「ありがとうございます」「ごめんなさい」などの言葉や行動で、自分の誠実な気持ちを伝えることが大切です。

「場を浄め」とは、行動する前に十分な準備をすることです。掃除をして教室をきれいにすること、明日の授業の準備をすること、体調を整えるために十分な睡眠をとることなどです。自分の夢や目標を達成するためには、必ず必要なことです。

「時を守る」とは、「時間を守ること」です。ただ単に時刻を間違えないようにするというだけではなく、「いまは学習の時間」「いまは好きなことをする時間」など、時間の使い方メリハリをつけて、わきまえられるすべを身につけてください。

生徒の皆さんには『礼を正し、場を浄め、時を守る』を心がけて、学校生活を楽しみながら多くのことを学び、伸び伸びと成長してくれることを期待しています。

『寸法で組まずに、癖で組め』

5月28日(火)より2泊3日で、3年生は京都・奈良方面へ修学旅行に行つてまいります。新緑の古き都で、歴史と伝統に触れてきたいと思います。ここで、代々法隆寺専属宮大工の棟梁(とうりょう)である西岡常一(にしおか つねかず)【1908年～1995年】氏の残された名言をご紹介します。※『木に学べ—法隆寺・薬師寺の美—』著者：西岡常一より
木にはそれぞれ癖(くせ)があり、一本一本違います。・・・まっすぐ伸びる木もあれば、ねじれる木もある。・・・法隆寺が千年の歴史を保っているのも、みな癖木を上手に使って建築しているからです。

棟梁というものは何かといいましたら、木の癖を見抜いて、それを適材適所に使うことやね。建築は大勢の人間が寄らんとできんわな。そのためにも、木を組むには人の心を組めというのが、まず棟梁の役割ですな。職人が50人おつたら50人が私と同じ気持ちになつてもらわんと建物はできません。

この言葉より、生徒一人ひとりの個性を生かし、よりよい成長を遂げさせたいという思いにあらためていたりしました。